

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年5月25日現在

機関番号：37111
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2011～2012
 課題番号：23652122
 研究課題名（和文）日本語・コミュニケーション能力の育成に関する基礎的・臨床的研究
 研究課題名（英文） Basic/Clinical Research of Japanese Language and Communication Skill Development
 研究代表者 小野 博 (ONO HIROSHI)
 福岡大学・学長付・非常勤嘱託
 研究者番号：10051848

研究成果の概要（和文）：

多くの教員は学生のコミュニケーション能力を感覚的に把握しているが、数値化された測定方法が共通化されていないため、測定方法を開発した。学習に際し大学生に求められるコミュニケーション能力の構成要素は、①発信力、②受信力、③初対面積極性、④学習積極性の4要素が重要だと考えた。約6,000名の学生に質問紙調査を実施した①質問紙の評価、②教員の面接による評価、③客観的な日本語力調査を実施し、学生のコミュニケーション能力と基礎学力等の検討を行い、教員の感覚と一致する測定方法を開発した。

研究成果の概要（英文）：

Many faculties are grasping their students' communication skill intuitively. Since there were no measurement methods commonly used to digitize the level of the students' communication skill, we have decided to develop our own method. We have defined the four most important elements of the communication skill required for the students to learn at universities. 1) Ability to convey message. 2) Ability to input message. 3) Enthusiasm at the first meeting. 4) Proactive learning. Based on these elements, we conducted a survey on 6,000 students through A) questionnaire, B) interviews by faculties, and C) objective examination of Japanese language skill. Through the process of analyzing the students' communication ability and their basic learning ability, we continued our effort in improving the contents of questionnaire and finally came to completing the development of the measurement method which reflects the faculties' senses.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：コミュニケーション能力の測定、発信力、受信力、初対面積極性、学習積極性、コミュニケーション能力の育成、役者の指導、モチベーション

1. 研究開始当初の背景

ゆとり教育、少子化やAO入試を始めとする筆記試験を経ないで大学に入学する学生の増加による学力低下、特に日本語、数学、英語などの基礎学力の大幅な低下が大きな社会問題になっていた。さらに、社会への無

関心、内向き志向などで教員や友人とのコミュニケーションが取れない大学生の急激な増加が新たな問題として注目されていた。その結果、留学希望者の減少など、社会から求められているグローバル人材の育成は大学の大きなテーマとなっているが、大多数の大

学では、ほとんど進んでいなかった。その原因を調査し、分析してみると、その大きな原因は、①中高における英語教育がコミュニケーション重視教育によって学生の英語力が急激に低下した、②就職難に代表されるような不況の継続で渡航費用の工面が難しい、③最も大きな問題は、学生のコミュニケーション能力の低下で非常に狭い仲間としか交流ができない、したくないことなどから留学どころか、友達ができない、やりたいことが見つからない、成績不振の学生が増大したことにある。70%を越す大学では、学力不振の大学生に対する対策として、入学前教育・初年次教育・リメディアル養育を実施している。

(2011年、日本リメディアル教育学会調査)しかし、多くの学会発表等で、これらの教育は成果が少ないことが分かった。その原因を、基礎学力の向上に関心の低い教員と学習意欲のない学生の組み合わせでは、どんな学習をしても成果が出にくいことにある。私たちは、これらの教育が成果を上げるためには、教員と学生や学生同士のコミュニケーションが良好で、学習意欲を高め維持させる必要があると考え、学習に際し、学習意欲を高めるためのコミュニケーション能力を構成する①発信力、②受信力、③初対面積極性、④学習積極性の4要素についてその測定方法の確立及び、これらの要素を高める学習について研究を始めた。しかし、コミュニケーション能力の測定方法について従来の研究は数十人レベルの検証に基づいたものは多数あるが、統一された調査方法の確立を目指したものがなかったことから、我々は、日本リメディアル教育学会内にコミュニケーション能力育成部会を立ち上げ、数千人レベルの調査体制を作り、結果分析・検討を共同で行うことによって、統一した測定方法を確立することとした。

2. 研究の目的

学習や就活に際し、コミュニケーション能力を高めることが重要であるとの認識は進んでいるが、その測定方法や高めるための学習方法は確立していない。多くの大学教員は自分の学生のコミュニケーション能力を感覚的に把握しているが、数値化された測定方法が共通化されていないことから比較ができなかった。そこで、まず、多くの大学で利用し学会等で同じ尺度で測定した測定方法に基づいて議論できるような測定方法を確立するのが第一の目的である。また、コミュニケーション能力が低い学生を対象とした育成方法に関する育成法を確立するのが第二の研究目的である。

3. 研究の方法

(1) コミュニケーション能力評価方法の確立

立

学習に際し大学生に求められるコミュニケーション能力の構成要素として、①発信力、②受信力、③初対面積極性、④学習積極性の4要素が重要だと考えた。そこで、質問紙を制作し、10大学の約6,000名の学生を対象に以下の調査を実施した①質問紙による評価に加え、②教員等の面接による評価、③客観的な日本語力調査を実施し、学生のコミュニケーション能力と基礎学力等の検討を行った。データ分析の検討会を経て質問紙の改良によって、教員の感覚とほぼ一致する測定方法の開発を行った。

(2) コミュニケーション能力の育成方法の開発

役者の養成機関で実施している学習方法の一部を導入した「対話力としてのコミュニケーション能力育成講座」を試験的に実施し、効果的な学習方法の確立に努めた。

欧米では昔から演劇をスピーチコミュニケーションの育成手段として利用することが一般的であるが、日本では英語劇を導入する大学が知られているが、普及していない。また、最近では小・中学生のコミュニケーション能力の向上を目指した演劇的手法の導入の動きが各地で見られる。

教員や仲間と円滑に意思疎通できることは大学で学ぶために有用なことであり、そのために必要な基本的特性は「発信力」や「受信力」である。これらが不足している学生を対象に、育成することは、学習面からも重要だと考えている。

役者の養成機関の指導者との話は非常に新鮮だった。役者や役者を目指す若者の多くは、実は口下手だそうだ。舞台の上で堂々と流暢にしゃべり、演じている俳優の姿に憧れてこの世界に飛び込んできた若者を、6ヶ月程度の稽古で誰でも舞台に立つまで育て上げるのが彼らの仕事だそうだ。その養成機関で実施されているノウハウを大学生の「発信力」や「受信力」「初対面積極性」「学習積極性」の育成に役立たせたいと考えた。

ワークショップでは、自分の日本語力を知るための日本語力テストを実施した上で、短時間の日本語教育の演習と、役者養成の基礎プログラムの一部を実施した。学習内容は、会話ストレッチ、筋力トレーニング、呼吸法・発声・活舌、イメージトレーニング、ボディトレーニング(喜怒哀楽を身体で表現)、感性トレーニング(即興劇・漫才・パワートーク・ゲーム)などの中から、大学の担当者として役者養成プログラム実施者が協議しプログラムを作成した。

講座の受講前後の学生の変化の検証は、受講前の学生の話しぶりを撮影した映像と、受講後に撮影した映像を役者が評定すること

による測定、および質問紙に対する回答の変化の測定により行った。なお、質問紙はコミュニケーション能力測定質問紙調査の項目から抜粋し作成したものである。講座の実施前に学生の日本語力を把握するため日本語力のプレースメントテストを実施するのは、「学習言語力」としての日本語力が「学習型コミュニケーション能力」を高める重要な要素であり、日本語の学習が初年次・リメディアル教育における最も重要で基本的な学習だと考えているからである。

講座を受講後に学生の表情が明るくなり、積極性が出て、「発信力」や「受信力」からなる対面会話力が向上したことは、講座受講前後に撮影した学生のインタビューの映像を比較観察することで確認できた。それは日頃学生に接しているそれぞれの大学の教員の観察を通じた印象とも一致した。

また、講座の前後に質問紙に対する回答を求めて効果の測定を行った。質問紙は、「発信力」、「受信力」、「初対面積極性」、「学習積極性」などのコミュニケーション能力を構成する因子を測定する項目、および「自尊感情」、「達成動機」等の心理特性を測定する項目からなるものとした。ワークショップ参加者の測定結果は、全ての因子および心理特性において統計的に有意な正の変化が観測された。2日間、各2時間程度の比較的短期間の講座でも学生のコミュニケーション能力を高めることが可能であることが確認された。

4. 研究成果

(1) コミュニケーション能力測定テストを開発

学習に必要なコミュニケーション能力として①発信力、②受信力、③初対面積極性、④学習積極性の4要素を選び、数値化して比較可能なコミュニケーション能力測定テストを開発した。

(2) コミュニケーション能力の育成方法の開発と検証

役者の養成機関で実施している学習方法の一部を導入した「対話力としてのコミュニケーション能力育成ワークショップ」を実施し、育成方法を確立した。5回のコミュニケーション能力育成ワークショップの前後に調査を実施し、学習後にそれぞれの要素が格段に向上することを確認した。また、テスト項目の改良を行い、完成した質問用紙を利用して、2013年度も数千人のコミュニケーション能力の評価を行なっている。

(3) 英語の海外研修の事前学習に応用

応用例として、海外の短期英語集中学習に参加する学生を対象とした事前研修に利用

し、Oxford大学の指導教員より評価された。その学習プログラムは、①コミュニケーション能力育成ワークショップ、②グローバル対応力育成ワークショップ、③短期集中英語学習の組み合わせた方法であり、学生のコミュニケーション能力の向上、学習へのモチベーションの高揚・持続、英語力の向上等の成果が認められた。また、海外英語実習に際し、指導教員との良好なコミュニケーションの元、積極的に発言し、熱心に課題に取り組んだと、その学習姿勢が評価された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

① 工藤 俊郎：大学生に有用なコミュニケーション能力の測定研究（質問紙調査分析から得た尺度の有効性の検討）、リメディアル教育研究、2013、8巻1号、p. 147-161、査読有

② 小野博、工藤俊郎、穂屋下茂、田中周一、加藤良徳、長尾佳代子：学習型コミュニケーション能力の測定と育成方策（学習型コミュニケーション能力を高める授業の導入を目指して）、リメディアル教育研究、2012、7巻1号、p. 96-103、査読有

〔学会発表〕(計4件)

① 「大学生に求められるコミュニケーション能力と育成方策」、小野 博、立命館大学、2012.08.29、「コミュニケーション能力」の測定方法の開発と育成方法の展開、日本リメディアル教育学会第8回全国大会シンポジウム

② 「学習型コミュニケーション能力（SCA）の評価テストの開発と調査結果」、工藤 俊郎、立命館大学、2012.08.29、日本リメディアル教育学会第8回全国大会シンポジウム「コミュニケーション能力」の測定方法の開発と育成方法の展開

③ 「医系大学における学習型コミュニケーション能力（SCA）の果たす役割」、田中 周一、立命館大学、2012.08.29、日本リメディアル教育学会第8回全国大会シンポジウム「コミュニケーション能力」の測定方法の開発と育成方法の展開

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小野 博 (ONO HIROSHI)

福岡大学・学長付・非常勤嘱託

研究者番号：10051848

(2) 研究分担者

穂屋下 茂 (HOYASHITA SHIGERU)

佐賀大学・高等教育開発センター・教授

研究者番号：70109221

田中 周一 (TANAKA SHUUICHI)

昭和大学・富士吉田教育部・講師

研究者番号：40569464

工藤 俊郎 (KUDOU TOSHIROU)

大阪体育大学・体育学部・准教授

研究者番号：10186413

加藤 良徳 (KATO YOSHINORI)

大阪体育大学・健康福祉部・准教授

研究者番号：20434540

(3) 連携研究者

なし